



まるで庭園を装った給水基地？ 兼六園が秘める繁栄の礎

加賀百万石・金沢の Teppan 観光地・兼六園は、市街地に囲まれた高台にありながら、清冽な水が園内の大きな庭園池を満たしています。でもポンプもない江戸時代に、どうやって自然エネルギーだけで水を引いたんでしょう？

じつは、11kmも離れた山あいの犀川上流に取水口を設け、緻密な勾配で流れ下る手掘りトンネルと水路で導水。この辰巳用水は園内では庭園要素「曲水」として張り巡らされ、標高55mの霞ヶ池へ。さらに石製の逆水管を地下にくぐらせた伏越し(逆サイフォン)によって、隣の高台にある金沢城から城下町、そして水田にまで水を供給していたというから驚きです。鳥瞰図を見ると兼六園は、まるで庭園を装いつつ、浄水池、貯水池、配水池を備えた給水基地のように見えてきませんか？

そんな池妄想はともかく、加賀藩が兼六園に注ぎ込んだ高度な水利技術が、「加賀百万石」と称される繁栄を支えていたことは確かでしょう。

「庭園池」アラカルト



ホテルニューオータニ清泉水

加藤清正公や井伊家の屋敷庭園としての400年余の歴史に、ナイアガラのような滝を加えた庭園池。観覧無料。

●東京都千代田区紀尾井町



栗林公園／南湖

兼六園と並ぶ日本三大庭園の園内には、六大水局と呼ばれる六つの庭園池があり、和舟での遊覧も再現されている。

●香川県高松市栗林町



養翠園／汐入の池

紀伊徳川家によって造られた池泉回遊式庭園。国指定名勝。湖の干満により水位が変動し、水の色や池の表情が変わる。

●和歌山県和歌山市西浜

文・イラスト・写真
市原千尋



Profile

全国2,600基のダムを含む日本の主要な池や湖沼11,000か所を車中泊で踏破。訪れた池の魅力を毎日ブログで発信。著書に「日本全国 池さんぽ」(三オックス)。



【運営ブログ】水辺漫路
<https://bunbun.hatenablog.com>